

老朽空家解体費補助制度について（案）

○趣旨

市民生活の安全・安心及び良好な生活環境の確保を図るため、老朽空家の解体を行う者に対し、これに係る解体費用の一部を助成し、市内の管理不全な空家の除却推進に資するものです。

○補助対象事業

空家等対策の推進に関する特別措置法（平成26年法律第127号）第2条第1項に規定する空家等のうち、昭和56年5月31日以前に着工された豊川市内にある住宅または併用住宅（店舗等の用途に供する部分の床面積が、延床面積の2分の1未満のものに限ることとします。）で、老朽空家の判定を受けた家屋の解体工事とします。

○老朽空家の判定

現地での外観目視調査により、別に定める表（裏面(案)）の項目に従って判定し、合計評点が基準点以上となったものを対象とします。

○補助対象者

- ・老朽空家の所有者であること。（同等の権利を有するものを含む）
- ・市税等の滞納のないこと。
- ・暴力団員でないこと。

○補助金の額

解体に要する経費の3分の2に相当する額（その額に1,000円未満の端数があるときは、これを切り捨てるものとします。）とします。ただし、30万円を上限とします。

（参考）豊川市木造住宅解体工事費補助

解体工事にかかる費用の3分の2の額又は20万円のいずれか小さい額

○年間見込み棟数

空家実態調査において「危険」又は「注意」と判断された空家数89棟に、調査後に新たに判明するものを想定加算し、合計100棟と見込みました。これを空家対策計画期間年数5年で除し、年間20棟としました。

「老朽空家判定基準表」(案)

評価区分		評価項目	評 定 内 容		評点
1	構造一般 の程度	①基礎	イ 構造耐力上主要な部分である基礎が玉石であるもの	10	
			ロ 構造耐力上主要な部分である基礎がないもの	20	
		②外壁	外壁の構造が粗悪なもの	25	
2	構造の腐 朽又は破 損の程度	③基礎、土 台、柱又は はり	イ 柱が傾斜しているもの、土台又は柱が腐朽し、又は破損しているもの等小修理を要するもの	25	
			ロ 基礎に不同沈下のあるもの、柱の傾斜が著しいもの、はりが腐朽し、又は破損しているもの、土台又は柱の数ヶ所に腐朽又は破損があるもの等大修理を要するもの	50	
			ハ 基礎、土台、柱又ははりの腐朽、破損又は変形が著しく崩壊の危険のあるもの	100	
		④外壁	イ 外壁又は各戸の界壁の仕上材料の剥落、腐朽又は破損により、下地の露出しているもの	15	
			ロ 外壁又は各戸の界壁の仕上材料の剥落、腐朽又は破損により、著しく下地の露出しているもの又は壁体を貫通する穴を生じているもの	25	
		⑤屋根	イ 屋根ぶき材料の一部に剥落又はずれがあり、雨もりのあるもの	15	
			ロ 屋根ぶき材料に著しい剥落があるもの、軒の裏板、たる木等が腐朽したもの又は軒のたれ下ったもの	25	
			ハ 屋根が著しく変形したもの	50	
3	防火上又は避難上の構造の 程度	⑥外壁	イ 延焼のおそれのある外壁があるもの	10	
			ロ 延焼のおそれのある外壁の壁面数が三以上あるもの	20	
		⑦屋根	屋根が可燃性材料でふかれているもの	10	
4	排水設備	⑧雨水	雨樋がないもの	10	
備考 一の評価項目につき該当評価内容が2又は3ある場合においては、当該評価項目についての評点は、該当評価内容に応ずる各評点のうち最も高い評点とする。				合計	点